

[報告]

電光掲示板を用いた佐賀県赤十字血液センターからの情報伝達

佐賀県赤十字血液センター

田崎 稔, 藤崎美由紀, 稲富鈴子, 江頭重博, 吉村博之, 佐川公矯

Publicity to citizens from Saga Red Cross Blood Center using an electric signboard

Saga Red Cross Blood Center

Minoru Tasaki, Miyuki Fujisaki, Reiko Inadomi, Shigehiro Egashira,
Hiroyuki Yoshimura and Kimitaka Sagawa

抄 錄

2012年7月より佐賀県赤十字血液センターでは、輸血用血液を安定的に確保するため、市民向けの広報活動の一環として電光掲示板を使用した情報伝達を行っている。

佐賀県赤十字血液センター敷地内に設置している電光掲示板は、国道264号線および駅北側大通りに向かわれているため、近くを通行する車内の市民および歩行者からよく見える構造となっている。

電光掲示板に表示する内容は、献血に関する基本情報、前日の採血種類別の献血者数、県内の医療機関における前月分の輸血実績である。

電光掲示板による血液センターからの情報伝達の効果については、月ごとの献血者の変動幅が少なくなっているが、現在の段階では、明確な数値をもって表現することは難しい。しかし、伝達する内容の書き換えが容易であり、リアルタイムの情報更新が可能であることから、有益な情報伝達の媒体であることが、私たちの作業によって再確認された。

Key words: electric signboard, publicity

【はじめに】

安定的な輸血用血液の確保のためには、献血者が継続的に協力していただくことが必要である。そのために、市民の方々に対して、さまざまな形で情報を提供し献血の推進を呼びかけている。方法としては、従来より、テレビ、ラジオ、新聞、地元の情報誌などのメディアを使用して広報活動を行っている。

2012年7月より佐賀県赤十字血液センターでは、血液製剤を継続的に安定して確保するため、

市民向けの広報活動の一環として電光掲示板を使用した情報伝達を行っている。

電光掲示板は看板と違い、一度に伝えたい内容を見ることはできないが、表示する内容の書き換えが容易にできるため、リアルタイムの情報更新が可能であり有益な情報伝達媒体として利用できる。本論文では、その経緯について報告する。

【方 法】

佐賀県赤十字血液センター敷地内に設置してい

る電光掲示板は、国道264号線および駅北側大通りに向けられているため、近くを通行する車内の市民および歩行者からよく見える構造となっている。

電光掲示板の構造は、高さ10mで掲示板の表示面積は縦270cm、幅74cmの19,980cm²である。文字は下から上へと縦に流れるように設定している(図1)。

電光掲示板に流す情報はパソコンにて「LED電子ディスプレイスアインバリューシリーズ表示コンテンツ作成ソフト」を使用して作成する。作成したコンテンツファイルをコンパクトフラッシュカードに保存し、そのカードをPCRユニット(カードデーター転送ユニット)のカード挿入口に差し込み、リモコン操作を行うことでデータの更新を行う。

その作業により新しいデータのもとに電光掲示板が稼働を開始する。

このように毎回データの更新を行っている。

【結果】

電光掲示板に流している内容を以下に示す。

1. 電光掲示板に固定表示として献血に関する基本情報を流す。

「献血プラザが、献血バスにて献血を行っ

ています。」

「献血の種類 400mL献血、血小板成分献血、血漿成分献血」

「受付時間 400mL献血 9:00 ~ 17:00、成分献血 9:00 ~ 16:30」

「平日、土日祝祭もオープン」「駐車場あります。」

2. 前日の採血種類別の献血者数を流す。

「佐賀県の献血結果○○月○○日○曜日」「献血者総数○○名」

「400mL献血○○名、血小板成分献血○○名、血漿成分献血○○名」

「ご協力ありがとうございました。」

※土・日・祝日は更新していない。

※200mL献血については、積極的な推進を行っていないため表示していない。

3. 県内の医療機関(佐賀大学付属病院)における前月分の輸血実績を公表している。また、同病院の承諾と協力のもとに血液製剤ごとの使用量上位3診療科の名前も公表している。

「血液製剤使用状況」「佐賀大学付属病院2014年○月」

「赤血球製剤○○単位」「①診療科名○%」「②診療科名○%」「③診療科名○%」



図1-A 佐賀県赤十字血液センターと

電光掲示板

※電光掲示板を矢印で示す。



図1-B 佐賀県赤十字血液センターと電光掲示

板を国道264号線の北側から見た遠景

※電光掲示板を矢印で示す。

「血漿製剤〇〇単位」「①診療科名〇%」「②診療科名〇%」「③診療科名〇%」「血小板製剤〇〇単位」「①診療科名〇%」「②診療科名〇%」「③診療科名〇%」「県内医療機関における血液使用状況のお知らせでした。」

佐賀県赤十字血液センターは3階建ての建物であるが、1階に献血ルームとして「献血プラザさが」を設置している。この固定施設「献血プラザさが」における献血者の推移を、2010年度から2013年度までの4年間にわたって集計した(図2)。

その結果、電光掲示板の表示内容を改めた2012年度の献血者数は2010年度および2011年度に比べて増加した。2013年度については、2012年度に比べて減少しているが、2010年度および2011年度に比較すると増加している。また、2012年度および2013年度は献血者数の月ごとの変動幅が少なくなっている。

また、「献血プラザさが」に来所された献血者から、電光掲示板に流している内容について、お声掛けをいただくこともあり、コミュニケーションを図るきっかけとなっている。

【考 察】

電光掲示板は2008年12月に血液センターの駐車場の改装に併せ設置された。しかし、それに流されていた情報は「献血プラザさが」、「400mL献血」、「成分献血」のみであった。なお、2012年7月より現状の形になっている。

より正確で細やかな情報提供が市民に向けて行われるようになり、一部の市民からはポジティブな評価を得ている。電光掲示板による血液センターからの情報伝達の効果については、現在の段階では、明確な数値をもって表現することは難しい。

しかし、伝達する内容の書き換えが容易であり、リアルタイムの情報更新が可能であることから、有益な情報伝達の媒体であることが、私たちの作業によって再確認された。

田中らによると初回献血推進には「きっかけ」と「奉仕の心」、献血継続には「メリット」と「奉仕の心」をキーワードとした広報活動が有効であることを念頭に置いて幅広い年齢層で広い地域での広報活動が必要と考えられている¹⁾。

今後は、日々継続した献血協力が必要なことを知りていただくために、血小板成分献血の血液型別必要数を表示し、毎日更新作業を行うことを計画している。

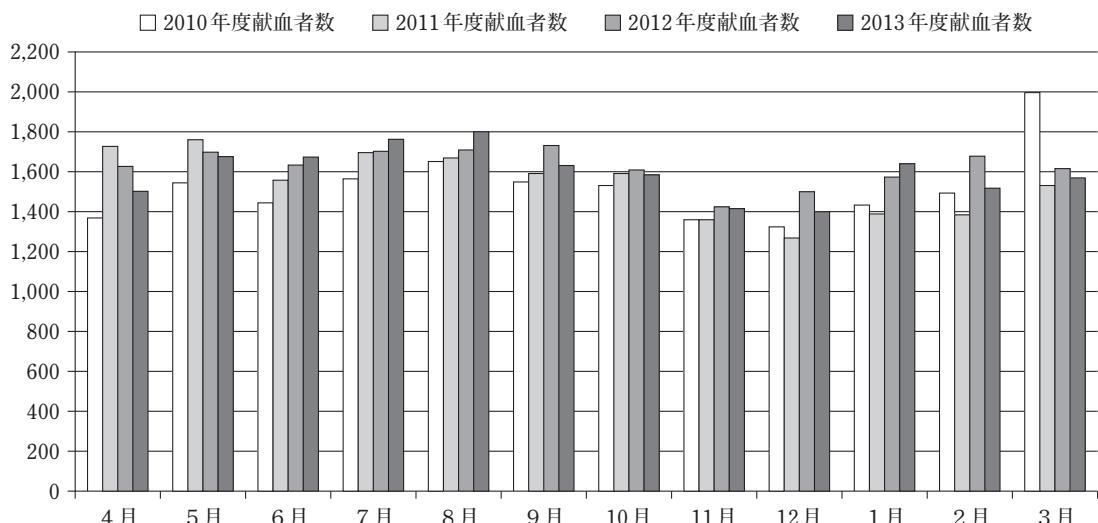


図2 「献血プラザさが」における献血者数の推移

また、来場者へのアンケート等により、献血の理解度および広告媒体に関する献血者の関心を、

数値化し分析を行うことで、細やかな対策を講じることが効果的であると考える。

文 献

- 1) 田中純子, 秋田智之:献血推進のための効果的な広報戦略, 公衆衛生, 77 : 612-618, 2013